

# 雲取山 ～長沢背稜を下る～

(報告) Fuji

◎日程：2018年5月5日～6日

◎メンバー：単独

長沢背稜はかねてより気になっていた縦走路のひとつ。「奥多摩の最深部」、「自然林が残る静かなルート」、「ロングコース」、「東京都と埼玉県の分水嶺」、などがチャージングポイント。一度歩いてみたいと思いながら、なかなか機会がなかった。

このところ体調は一進一退、現在の状態でこのロングコースが歩けるだろうか？ 思案の結果、下りであればなんとか歩けるだろうと計画した。

即ち、初日は「鴨沢から入山して雲取山荘泊」、二日目に「芋ノ木ドッケより長沢背稜に入り、一杯水より東日原に下る」こととした。初日は約13Km、二日目は約23Km、長ーいコースである。

7時40分頃、鴨沢にて多くの登山者と共にバスを降りた。皆さん次々と出発していくが、出発は最後でも良いと、ゆっくりとストレッチなどをして8時に歩き出した。雲取山荘には15時到着の予定なので、急ぐことはない。とにかくゆっくりと歩を進める。今回の目的は明日、長い長沢背稜を歩くこと。疲れを残さないことが肝要だ。

人気の鴨沢ルートは、後から後からどんどん人が登ってくる。後から足音が近づいてくると全て道を譲った。ポイント毎に昔はなかった将門伝説の説明看板が立っていた。

小袖は将門が小袖を沢で洗ったとき、忘れたことがその地名の由来とか。堂所は、将門の鎧、兜の胴をおいたところがその名の由来とか、知らなかったことばかりである。

ブナ坂には予定通り昼頃に到着し、昼食・休憩とする。石尾根は広くて展望がよく気分が良い。ヘリポートの先はテント村が出来ていた。何度も休憩を繰り返して、14:15、山頂に到着した。無風快晴、ゆっくり展望を愉しんでから雲取山荘に向かった。山荘には予定通り15時に到着した。



雲取山の山

午前3時半、予定通り起床。小屋の朝食は5時からとのことで、朝食は自炊にした。その方が早く出発出来る。自炊小屋で朝食を食べていると、小屋の方がやってきた。

「早く出発したいので食べています」、「どこへ行くのか?」、「長沢背稜です」

「とにかく人が入っていないので、・・・何かあっても・・・気をつけて・・・」

よほど心配なのだろう。高齢で、ひとりであるから、当然かもしれない。

かくして、4:40にスタートした。まだ静かなテン場を抜けていく。男道を行くとすぐに大ダワに到着した。写真を撮っていると、女性がひとりやってきた。小屋のストーブ前で弁当を食べていた方だ。同じく長沢背稜に行く方であった。挨拶を交わしたのみで、女性は立ち止まらずに追い越していった。ちょっと距離を取ってから芋ノ木ドッケに向かう。三峰方面との分岐を過ぎて登り詰めると、芋ノ木ドッ

ケ(1,946m)に到着した。女性の姿が見えていたので、あまり接近するのも気が引けて、暫く休んだ。シラビソ樹林の中で展望はない。いよいよこれから長沢背稜だ。「昔はヤブがひどく前が見えなかった。ゴーグルをしてヤブをかき分けて進んだものだ」とは、今朝出発の時の小屋の方の話だ。今はヤブはなく、自然林のなかに登山道が続いており、問題なく歩ける。



長沢山の山

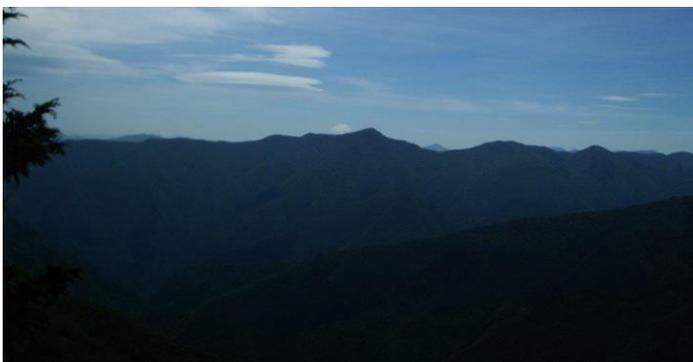
ヤトケの頭(1,818m)、小屋背戸の頭(1,820m)は気づかずに通過してしまっただが、この辺りの稜線からは石尾根が見えた。桂谷ノ頭(1,708m)を通過すると間もなく、長沢山(1,738m)に到着した。驚いたことに、この奥深い山に、雲取山や鷹ノ巣山などと同じ立派な石の山頂標柱が建てられていた。東京都はお金があるのだろう。山頂を後にしてゆっくりと歩を進める。新緑の樹林に心身ともに癒やされる。疲れた訳ではないが広いところでザックを降ろして、しばらくこの森の中に身を置いてみる。なかなか気分がよい。

やがて天祖山への分岐に到着した。調子が悪ければ、天祖山から日原にエスケープしようと考えていたポイントだ。調子は良く、まだ8:20、時間もたっぷりあるので、予定通り先へ進む。滝谷の峰ヘリポートを通過すると間もなく、タワ尾根との合流ポイントに到着した。特にタワ尾根の表示はないが、タワ尾根とはどこで合流するか？が気になっていたのですぐに分かった。

腰を下ろして休憩とした。いつか、タワ尾根を長沢背稜まで登ってきたいものだ。この先、酉谷山の分岐に到着した。地図で山頂へは分岐から25分を確認して、山頂を目指すことにした。登りになるとさらにゆっくりとなったが、前回登頂したのはいつ頃だったか？と思いつつしながら一步一步、歩を進め、酉谷山(1,718m)に到着した。山頂標柱は木の柱であった。30数年振りと思うが、当時は、標柱もなく樹に表示板が付けられていたように思う。当時より山頂の樹は減っている。きっと切られたのだろう。



酉谷山の山



ハナド岩より 中央のピークが雲取山その左の稜線は石

次の日向谷ノ頭、坊主山、七跳山は巻いた。七跳尾根の分岐に「小川谷林道は通行止め」の注意書きがぶら下がっていた。もう通行止めになって久しいので、エスケープにも予定はしていなかったルートである。一杯水を目指して歩を進めると、久しぶりに人に出会った。「酉谷山に登ります」とのことであった。次の大栗山も巻いた。ハナド岩の分岐に「ハナド岩まで20m」とある。これは行ってみた。展望バツグンであった。正面に石尾根から雲取山の稜線が見える。そして雲取山から続く稜線も見える。「あんなに遠いところから歩いてきたのだ」を実感する。

縦走路に戻って静かな道を行くと、天目山の分岐に到着した。もうかなり疲れており、躊躇無く巻き道を進んだ。一杯水避難小屋に近くなるとミツバツツジが目立つようになった。ピンクの花が和ませてくれる。やっと一杯水避難小屋前に到着した。13:30分であった。ミツバツツジに混じってシロヤシオも一本あったが、いずれも満開で、花を愛でながらしばらく休んだ。

これより東日原までのコースタイムは2時間。腰を上げ歩き始めたが、下るほどに足が前に出ず、ずいぶんとゆっくり下った。しかし、バス停着は15:40。コースタイムと同様、2時間で下ったことになる。何故？雲取山荘から丁度11時間であった。巻いたピークの方が多かったが、不安のある足で長いコースを歩き通せたことに満足。

長沢背稜はもっと歩かれてもよいコースと思う。途中で簡単にエスケープできないが、特に難所は無いので、経験と体力があれば歩けると思う。暑くも無く寒くもなく、新緑や花が綺麗な丁度よい時期であった。

#### <コースタイム>

5/5：鴨沢 8:00～堂所 10:30～ブナ坂 12:05～奥多摩小屋 13:00～雲取山 14:15 雲取山荘 15:00

5/6：雲取山荘 4:40～大ダウ 4:55～芋ノ木ドッケ 5:50～長沢山 7:30～天祖山分岐 8:20～滝谷の峰ヘリポート 8:55～タワ尾根との合流点 9:05～酉谷山 10:25～酉谷避難小屋 10:45～七跳尾根分岐 12:05～ハナド岩 12:45～天目山分岐 13:15～一杯水避難小屋 13:30～東日原バス停 15:40